

No.	回	目次	頁	意見等・質疑内容	審議会での対応	記載頁	ビジョンの修正
85	5	3.2.2 循環	62	下水道の接続に関するところで、2028年に100%の接続を目指すとする。本当は3年以内に接続しなければいけないが啓発活動でよいのか。法律の趣旨等を説明して接続していただくよう努めるとかではないか。100%の目標を達成できない。啓発ではなく指導が適当ではないか。啓発活動だと「やってください」という感じであるが、もう少し強い表現をとということである。そうでないと100%にならないのではないか。	関係課と調整させていただきたい。	62	具体的取組⑤を修正。
86	5	1.5.5 経営状況	15、21	水洗化人口は利用者数のことだと思うが、本来の利用者数は分からないはずではないか。人口などを捉えるときは、どういう考え方に基いた数字かを説明した方がよいのではないかと。給水人口・処理人口が市の人口を基にしているのであれば、それをどこかに表記しておくかないといけないということである。	表記については分かりやすく加筆させていただきたい。	15、21	用語集への記述。資料編の5.用語の解説に記述。
87	5	1.4.3 水源	7	追記したという水源系統図についてだが、これでは自分の飲んでいる水がどこから来ているのかわからないのでは。地図で色分けすることは難しいのか。	どの地区がどこからとか詳細に表記することが難しい。正確に把握することが難しいため、このような表記とさせていただきたい。	7	特になし。
88	5	3.2.4 持続	71	コンセッションを取り除いたということだが、本当によいことなのか。パブリックコメントへの回答は、いろいろノウハウを効率的に活用するとか、さまざまな官民連携手法の導入についてサービスの向上に努めるとか、よい回答をしていると思うが、取り除いてしまうということがよいのか。	水道法改正の中にコンセッションが入っているが、現状としては課題を解決する方が優先と考えており、水道事業については広域化が先と考えている。コンセッションを排除するのではなく、考え方として広域化等可能なことから課題の解決に向けて力を注ぎたいというものである。	71	特になし。
89	5	1.3 基本理念	3	下の方に空いているスペースがある。そこに載せるイメージ図を考えた。別紙資料を配布。		3	図表・グラフを追加。
90	5	3.1 上下水道事業の施策方針	49	本文に安心・安定・持続・環境とあり、下のイメージ図には、安全・循環・持続・強靱とあるが、本文には強靱がない。本文では安心だが下の図は安全である。安心・安全とした方がよいのではないかと。	新水道ビジョン、新下水道ビジョンの趣旨を踏まえたものであり、現状の水道ビジョンを策定した時と比べて時代背景が変化している。図の方針も変わってきており、国の示すキーワードや施策等の整合を図っていることで、この体系にさせていただきたい。(局長)	49	特になし。
91	5	3.2.1 安全	51	「お客様」という言葉を利用者とか使用者という言葉にした方がよいのではないかと。	【6回回答】表現方法は原案のまま「市民」全員ではなく、上下水道のサービスを受けることができる方を対象としているため、「お客様」という言葉に統一しております。また、税金とは別に使用料等を徴収しておりますので、客(買手)を敬って、お客様と記載しています。	51、67	特になし。
92	5	3.2.1 安全	52	水安全計画では、「安全・安心」としているのので、No.90の指摘につながる。		52	特になし。
93	5	3.2.1 安全	55	「注意喚起を行います」ではなく「行っています」とした方がよいのではないかと。	【6回回答】表現方法は原案のまま継続しているという意味では、ご指摘の通りですが、本ビジョン策定時において計画期間は未来になること、ビジョンは今後の方向性を示したものであることから、統一してこのような表現としています。	55	特になし。
94	5	3.2.3 強靱	66	「施設の延命が図れます。」を「延命を図ることができます。」とした方が、印象がよいのではないかと。	【6回回答】表現方法は原案のまま継続しているという意味では、ご指摘の通りですが、本ビジョン策定時において計画期間は未来になること、ビジョンは今後の方向性を示したものであることから、統一してこのような表現としています。	66	特になし。
95	5	3.2.4 持続	71	「見える化」という言葉は、「開かれた」というような表現の方がよいのではないかと。「策定を行い、開かれた。」	【6回回答】表現方法は原案のまま	71	特になし。

No.	回	目次	頁	意見等・質疑内容	審議会での対応	記載頁	ビジョンの修正
96	5	3.2.4 持続	71	公有財産というのは、どのような財産を公有というのか分からない。	【6回回答】公有財産について説明。	71	特になし。
97	5	1.3 基本理念	3	厳密にいうと主語がない。例えば主語に「上下水道局は」と入れるなど、文章としてもう一度整理していただいてもよいのではないか。	文章の主語、その他整理していただけますか。(議長) 整理します。(事務局)	3	事務局で加筆修正。
98	5	1.3 基本理念	3	基本理念については、国の考えを反映した形ということだったが、すごくシンプルで下に余白がいっぱいある。もう少し川越の上下水道局としてどういう考えなのかが伝わるように、これからやりたいことなど、書き込めるかは別として検討いただきたい。	職員の意識としては、特に重要な課題として、p.47に記載されています。余白を埋めることが目的であれば、別の方法で対応します。	3	特になし。
99	5	1.3 基本理念	3	先程の委員の方の御指摘、基本理念の案については、分かりやすいし、元のものよりは伝わりやすさをもう少し考えなければいけないかなと感じた。		3	図表・グラフを追加。
100	5	3.2.2 循環	60	2017年度の数値が決定したということだけで1.63に修正したということだが、目標値が変わっていない。この目標値でよいのか、そもそも上がった原因はどこにあるのか。どういう目標値の設定をしたのか。	原水と地下水の割合を9:1で使っていたのを地下水の割合を上げた経緯がある。地下水を汲み上げるポンプを多く使う必要があり、消費エネルギーが上がった原因になっている。	60	中間目標値、目標値を修正。
101	5	3.2.4 持続	84	指標の出前講座を2023年度は1回以上実施すると目標が達成できると読むのだろうか、これで達成したと言えるのか。指標の見方としていかがなものだろうか。お客様にどのように感じていただけたのか、こちらからのアプローチに対してどう受け止められたのかという部分が、コミュニケーションを取るうえで一番大事になってくる。その辺をどう把握していくつもりなのかを表すことができれば一番よいのではないか。	検討させていただきます。 【6回回答】進捗表にて説明。	84	評価指標変更「情報提供・啓発活動の回数」
102	5	1.4.3 水源	7	総配水量で原水が90%、地下水が10%と書いてあるがこの率でよいのか。井戸水の率を上げていったときにこの率でよろしいか。	原則として原水90%、地下水10%ということで県と話をしているが、今後地下水の比率を少し高めたいと考えている。今は91.5%くらいのレベルであり、概数で9:1に取めていただきたい。	7	特になし。
103	5	1.3 基本理念	3	目次を見ると企業局の役割などがいろいろと絞って書かれている。単なる上水とか下水の重要性だけでなく、いわゆる企業体としての役割も書いてある。基本理念でそういう話も入れてはどうか。	基本理念については、ビジョンの中でも大切な位置付けであると考えている。企業体としてどう対応していくのかということについては、市としての理念を込めて全体としてまとめられればイメージしている。 【5回】 【6回回答】企業体として、市民サービスとして、継続していくためにすべきことは、策定の趣旨で記載済み。	3	特になし。
104	5	1.3 基本理念	3	基本理念に関して先程提案のあった部分は非常に重要だと感じるが多かった。 上下水道は市民の共有財産であること。公の責任でサービスを提供し続ける必要があるという認識を持っていただきたい。 国の施策、考え方が変わってきたという話があったが、これには一定の距離をもって見ていただき全面的に国の方針に従うということには慎重であってほしい。 コンセッションを記載から除いたことに関しては、水道法を運用する人たちが今どういうことが本当に必要なか考えた結果だろう。広域化により「おおやけ」が責任を持った方がよいのではないかという考え方に基づいて埼玉県は独自に考えた対応をしているということもあるので尊重しながらやってもらいたい。	今後の参考にさせていただきます。	3	特になし。

No.	回	目次	頁	意見等・質疑内容	審議会での対応	記載頁	ビジョンの修正
105	5	3.2.2 循環	62	今後下水道をどのように整備していくのか。まだ負担区も設定されていない所がある。これはどれくらいのペースで整備されるのかまったく見通しが立っていない。整備されたら義務だから接続しなさいということでは、なかなか生活設計と一致をみない。住民が理解できるような形になれば、接続も向上するし、生活とセットで下水道につないでいく見通しが立つと思われるので、そういう方向に議論が進んでいくとありがたい。	今後の参考にさせていただきます。	62	特になし。
106	5			今日の審議を踏まえて気付いたことがあったら、追加の意見を出してもよいか。	今日いただいた意見を踏まえて調整するが、追加については12月上旬くらいまでに連絡をいただければ次回案としてお示しする中には含めることが可能と思われる。		

1.3 基本理念

水道は、生命を支える「飲み水」とするとともに、暮らしを支えるライフラインとして欠かせないものであり、これを担う水道事業は、安全で良質な水道水を効率的かつ安定的に供給することで、日々の生活にうるおいを届けます。

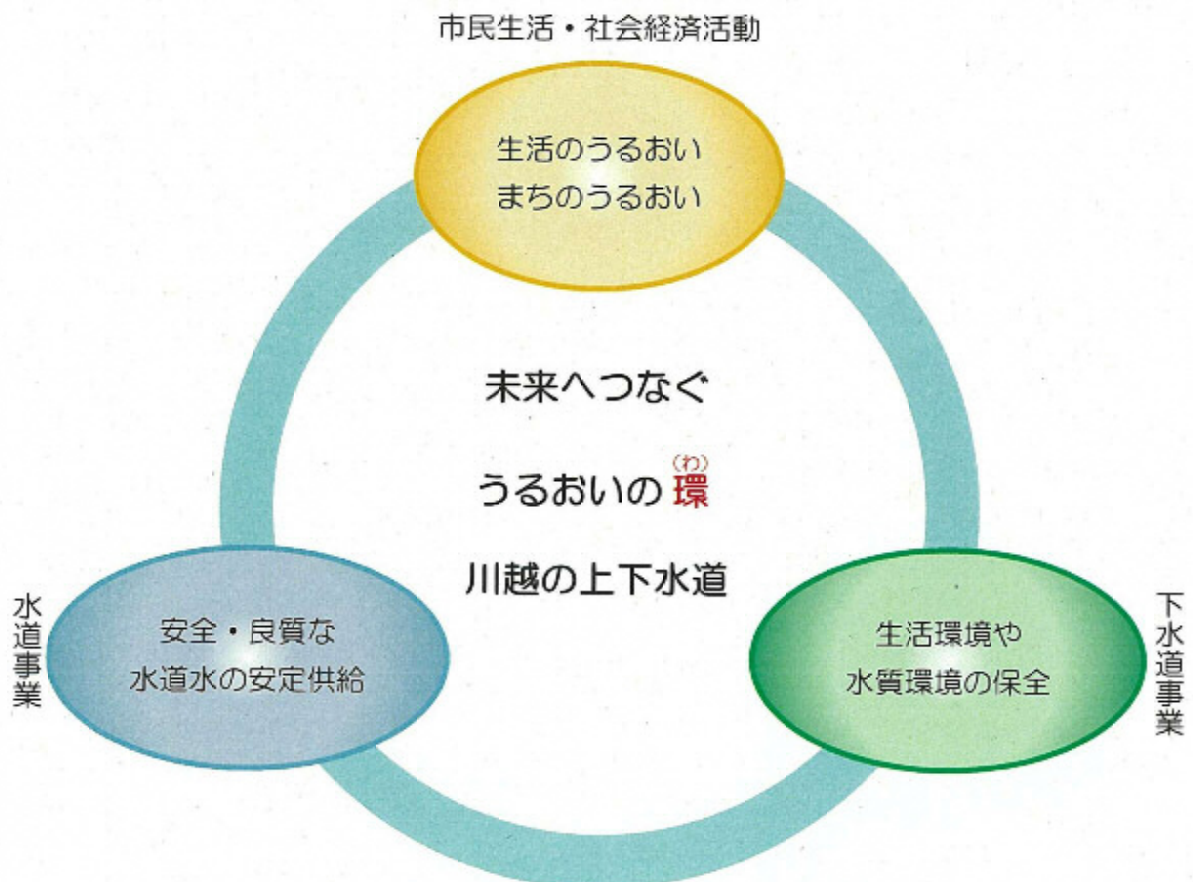
下水道は、限りある資源である水を自然にかえす水循環の一端を支えており、これを担う下水道事業は、生活環境や水質環境の保全により快適な水辺空間を創造し、まちにうるおいを与えます。

市民生活・社会経済活動と上下水道事業は、うるおいという環（わ）でつながっています。そして、この環（わ）は未来へつなげていかなければなりません。

そこで、「川越市上下水道ビジョン」では

『未来へつなぐ うるおいの^(わ)環 川越の上下水道』

を基本理念として掲げます。



3) 省エネルギー対策



上下水道事業は、資源やエネルギーを多く消費する事業であるため、省エネルギー対策は環境負荷の低減と経営効率を高めるという観点からも重要な課題となっています。ポンプや大型変圧器などエネルギー消費量の多い機器の更新に際しては、エネルギー効率の高い機器を採用します。

また、上下水道局が保有及び管理している事業所や施設について、再生可能エネルギーや未利用エネルギーの活用について検討します。

【具体的取組】

- ① 上下水道施設における高効率機器の導入など、効果的な省エネルギー対策を推進します。
- ② 配水エネルギーの低減化に効果のある、県水の直送方式の導入可能性を検討します。
- ③ 配水区域のブロック化を実施することで、エネルギー効率の高い自然流下区域の拡大と、ポンプ圧送区域の縮小による配水エネルギーの低減化を目指します。
- ④ 上下水道管理センターの太陽光発電システムは、引き続き場内利用電力に活用しつつ、他施設への設置について検討します。
- ⑤ 未利用エネルギーとして、下水を熱源とした空調設備等への熱供給や、上下水道管路の落差を利用した小水力・低落差発電の活用可能性について、引き続き検討します。

【評価指標】

	実績値 現況 (2017年度)	中間目標 (2023年度)	目標 (2028年度)
配水量1m ³ あたりの消費エネルギー (MJ/m ³)	1.63 1.55 (2016年度実績)	1.62 1.54	1.61 1.53

2) 生活排水処理の適正化



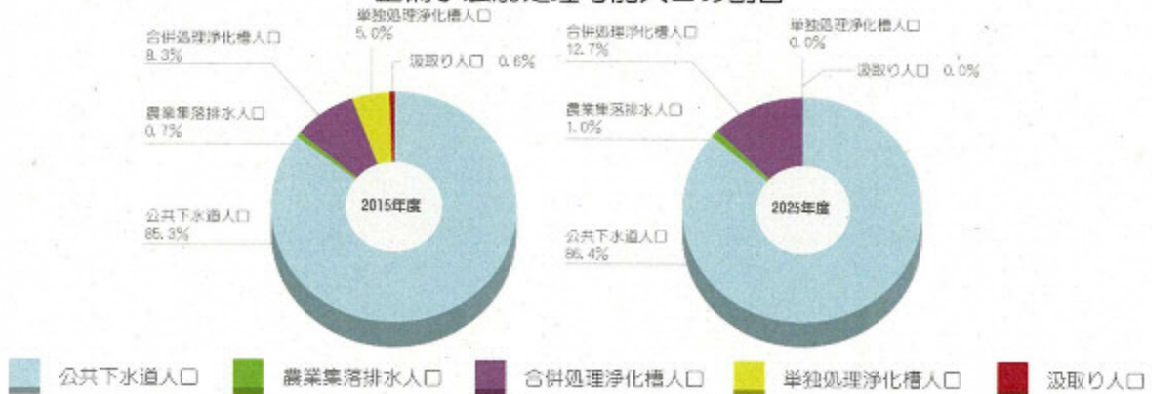
下水道事業は、「生活排水処理基本計画書」に基づく、生活排水処理事業の一端を担っており、農業集落排水、合併浄化槽等とあわせ、それぞれの事業が有する特性、経済性等を総合的に勘案し、整備区域を定め公共用水域の水質保全に努めています。

また、下水道整備を行った区域に対して、接続率の向上に向けた取組を行うことが必要です。

【具体的取組】

- ① 「生活排水処理基本計画書」に基づき、近年の市街化調整区域の接続率の低下を考慮し、費用対効果を踏まえて引き続き効率的な下水道整備に努めます。
- ② 下水道接続率向上のため、下水道整備予定区域の市民に対して、下水道整備に関わる意向調査を行います。
- ③ ~~すでに下水道整備を行った区域の未接続者に対して、継続的積極的に戸別訪問を行い、啓発活動を実施する等、下水道の接続義務等について指導することにより、継続的に下水道への接続指導を強化します。~~を促します。
- ④ 広報や市ホームページを活用した PR 活動をさらに充実させ、市民へ下水道への接続の意識向上に向けた情報提供を行います。

整備手法別処理可能人口の割合



※ 四捨五入のため、割合の合計が100%にならない場合がある。

出典：「生活排水処理基本計画書」

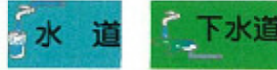
【評価指標】

	実績値 (2017年度)	中間目標 (2023年度)	目標 (2028年度)
人口普及率 (%)	85.6	86.0	86.4 (2025年度)
下水道接続率 (%)	97.8	99.0	100

(3) お客様とのコミュニケーションの推進

上下水道事業の運営には、お客様のご理解とご協力が欠かせません。お客様とのコミュニケーションを充実させ、サービスや信頼の向上に努めます。

1) 積極的な情報伝達



上下水道局が発信する情報の内容については、社会的な要望やお客様からのアイデア等を踏まえた、より解りやすいものであることが重要です。

お客様が上下水道事業について一定の知識を備えることは、災害時等の緊急時の対応にも役立つため、給水装置や排水設備の適切な管理方法等の情報を提供します。

また、将来を担う子供たちに水の大切さや安全性、上下水道を取り巻く状況等を正しく理解していただくために施設見学等を推進します。

上下水道局では、情報発信・広報のあり方を見直し、効果的な情報の伝達や、新たな情報提供の方法を検討します。

【具体的取組】

- ① 新たな媒体の活用を検討し、幅広い情報をタイムリーに発信するよう努めます。
- ② 施設見学会や出前講座などにより、上下水道事業の啓発を行い、~~学習の機会を~~提供します。**情報提供、啓発活動を推進します。**



小鹿野町・川越市 いのちの水を訪ねる上下流交流事業

【評価指標】

	実績値		
	現状 (2017年度)	中間目標 (2023年度)	目標 (2028年度)
情報提供、啓発活動の回数(回/年)			
出前講座実施回数 (回/年)	10 0	13以上 1以上	15以上 2以上